福井県の海底文化財に関する調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 達夫, 田中, 照久, 田﨑, 稔也, 渡邉, 玲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/27156

福井県の海底文化財に関する調査

佐々木達夫 , 田中照久 , 田﨑稔也 , 渡邉玲

福井県は若狭湾の湊町を利用した海上交通や漁業が盛んであったことが知られており、玄達瀬から底引き網で引き揚げられた中世の越前焼等が早くから知られていた。それらを再整理する作業を中心に、2009 年と 2010 年に金沢大学考古学研究室とアジア水中考古学研究所が日本海域水中考古学会会員の協力により現地踏査や実測撮影等を実施した。調査や金沢大学考古学研究室における整理作業には宮本眞晴、塩澤隆慈、松井広信、中野雄介、中野峰久、佐々木花江などが関わった。本文中にお名前を掲げた多くの方々に現地でご助力いただいた。感謝。

高浜町

高浜町郷土資料館に海揚がり品の展示や保管はない。難波江海岸は砂浜で僅かな陶磁器片が小石堆積のなかに見える (Fig.7-1)。江戸後期の波佐見碗もあるが、明治以降が大部分を占める。高浜の佐伎治ｻｷﾁ神社の鐘 (Fig.5-6) は、中世に若狭湾から引き揚げられたという伝承がある。中寄海岸は幅広く長い砂浜で、2km ほど歩くが陶磁器片は落ちていなかった。和田浜は長い砂浜海岸で、夏は海岸は海水浴客で賑わっていたため、踏査していない。その東側の釈迦浜は断崖絶壁の長い海岸に岩が露出する。断崖下の岩面に発砲スチロールやブイ、船体の残骸、流木などの漂着ゴミがペットボトルやビール缶とともに厚い層をなして堆積している。そのなかに中近世の陶磁器など海揚がり品を探すのは難しい状態である。

Fig.1 福井県海岸踏査地点

おおい町

おおい町立郷土史料館、松木庄吉美術記念館に海揚がり品の展示と保管はない。

小浜市

1990 年 11 月、小浜市矢代浜で防波堤の工事中、海底の土砂がかき回された際に浮き上がったらしく、赤い布に包んだ木像が砂浜に流れ着き、地元の子供が拾い上げた。一緒に中国銅銭もかなりの量が採取されたというが、今は紛失したと地元の方が言う。矢代の海岸の現在は港湾内海底になった場所に埋もれていたことになる。烏将軍・伽樓羅王立像 (Fig.5-7)、木造一木造り、南宋時代 13 世紀と言われる。福井県立若狭歴史民俗資料館所蔵で展示している。

福井県立若狭歴史民俗資料館には海揚がり品ではないが、蛸壺 2 点が展示されている。資料館の玄関前の庭に、4 本の四爪鉄錨 (Fig.5-9) が置かれている。長さ 9 尺 5 寸 288cm、9 尺 273cm、6 尺 5 寸 197cm、10 尺 303cm である。小浜市川崎の海埋立時に発見された錨である。

矢代の西福寺に観音様が収められているが、これも海岸に流れ着いたものである。矢代海岸には蛸壺の破片が数点落ちていた (Fig.7-2)。

福井県海浜自然センターの桝郷さんが 2010 年 9 月に小浜市西津で採集した陶磁器片は近世の染付片である (Fig.9-3,4)。

若狭町

福井県海浜自然センターに若狭地域の海岸漂着物を展示している。高浜町の一瀬久男さんが海岸に漂着したごみを採集し、その一部も含まれている。2010 年夏には採集した陶磁器片は展示されておらず、歴史的に遡る漂着物も含まれていなかった。海浜自然センター前の食見海岸は毎年砂を入れているので、陶磁器などの海揚がり品は拾えなかった。センターの桝郷さんが 2010 年 9 月に若狭町倉見で採集した陶磁器片は近代の染付片である (Fig.9-7)。

美浜町

丹生海岸は砂浜で海揚がり品はない。弁天崎は岩海岸で海揚がり品はない。

敦賀市

敦賀郷土博物館に海揚がり品はない。敦賀市立博物館に海揚がり品はないが、蛸壺 4 点が展示されている。越前町の斎藤洋一さんが引き揚げた擂鉢と同じものが、昭和時代として展示されている。

立石岬。敦賀半島の先端に位置する海岸で立石灯台があり、大きな岩からなる海岸である。近代の染付碗が 1 片確認された (Fig.7-3)。色浜・手の海岸は 500 m ほどの長さの砂浜で、敦賀半島西岸の中ほどに位置する。現代の越前焼や近現代の染付 5 片などを含む陶磁器類 10 片が採集できた (Fig.8-1)。気比の松原は敦賀半島西岸の付け根に位置する日本三大松原の一つであるが、遺物は確認されなかった。

敦賀の美術商所有の越前甕 1 点 (Fig.5-8)。小浜湾から揚がった越前焼である。高さ 44.2cm、胴径 50.5cm。年代は木村孝一郎氏編年のⅡ - 1 新、1230-50 年。

福井県海浜自然センターの桝郷さんが 2010 年 9 月に敦賀市名子で採集した近世の染付片である (Fig.9-5,6)。

南越前町（旧河野村）

北前船船主の館に海揚がり四爪鉄錨 3 点 (Fig.5-10) が展示されている。三国町神明の平野利男さん寄贈品である。大きい錨は船主の館から北西 30 マイル、水深 530 mの日本海から平野利男所有の底曳網漁船、長栄丸が引き揚げた。長さ 2 m 42cm。1 m 97cm。1m97cm。

南越前町河野歴史資料館に、大正 13 年 12 月 12 日に河野村槽浦海岸で座礁した特務艦の関東艦の最近海底から見つかった船体の一部が展示されている。漁具の展示品のなかに、貝殻が付着した越前焼の蛸壺が 9 点展示されている。

河野漁港西側の河野海水浴場は小砂利の海岸で、僅かな陶磁器片が落ちている (Fig.8-2)。明治時代以降、昭和時代が大部分である。

丹生郡越前町

弥生後期尖底土器 (Fig.5-5)。若狭湾内の冠島と青葉山を結ぶ線上にあるキツジマ沖で引き揚げられた。遺跡の海没による産物と推測されている。水勢摩耗で文様が失われている。(越前町 1977:8)。

弥生時代後期の土器壺 (Fig.5-2)。高さ 22.8cm、口径 13.5cm、頸部径 10.6cm　胴部最大径 23.1cm、底部径 5cm。この壺は越前岬沖の玄達瀬付近で引き揚げられた。複合口縁で、口縁帯はやや外傾し、5 本の凹線がめぐり、胴部最大径が胴部中央にあり丸みをもち、平底で器肉は薄く、口縁部内面および頸部内外面はナデ調整、内面はケズリ調整、底部側縁はヘラミガキ調整で内面はケズリ調整、外面が淡褐色、内面が暗茶褐色を呈し、胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好である（越廼村 1988:159）。

弥生後期の土器壺 (Fig.5-4)。現高 23cm、胴部最大径 19.4cm、底部径 5.5cm。経ヶ御崎沖浦島の瀬で引き揚げられた。底部から肩部のみが現存している。胴部は長胴気味で底部は上げ底気味、胴部表面はハケによる調整がみられ、胴部中央内面はハケによる調整、その下方はナデ調整、色調は褐色を呈し、器肉は 5mm 内外でその中には 1~3mm の砂粒を含む（越廼村 :1988:160-161）。

弥生後期土器壺 (Fig.5-3)、現高 13.3cm、胴部最大径 16.1cm、底部 5.6cm。経ヶ御崎沖浦島の瀬で引き揚げられた。底部から胴部まで現存している。底部は若干上げ底気味で、底部外面はハケ調整、胴部内面はナデ調整、色調は茶褐色、胎土に 1~2mm の砂粒を多く含む（越廼村 1988:161）。

その他弥生時代以降の引揚げ遺物として、古墳時代の須恵器が三国町雄島近海、平安時代の須恵器甕が玄達瀬、平安時代の仏像が越前岬沖で引揚げられている（越廼村 1988:161）。

越前大甕 1 点 (Fig.4-4)(田中 1983、田中 2010)。高さ 74.7cm、口径 49.5cm、胴径 64.8cm、底径 21.3cm。陶芸館に保管される弥生時代土器を引き揚げた越前町の漁師が 1982 年 2 月下旬頃に玄達瀬近くの越前沖北西 32km、水深 270 mからカレイの底引き網で引き揚げたものである。

擂鉢 1 点 (Fig.4-1)。高さ 12.3cm、口径 36.8cm、底径 16.1cm。木村編年Ⅴ期 -2（1550 年頃、Ⅴ期を 1490 年から 1580 年とし、1．2．3 小期に分類）に該当する。入れ子状で発見され使用痕もないため商品として運搬中であった。

2009 年踏査では採集品がなかったが、2010 年再踏査で、呼鳥門海岸で明治時代以降の陶磁器片を採集した。岩と砂利の海岸で砂浜はなく、陶磁器は小片となり摩耗した状態で落ちている。海揚がりではなく、

陸地からのゴミであろう。

北瀬良春さん保管品

越前焼大甕 1 点 (Fig.2-1)。無釉。高さ 74.5cm、口径 44.3cm、胴径 62cm、底径 23cm。器厚は薄い。玄達瀬東部の海底 250 mほどの地点。太の窯印あり。昭和 61 年より後は玄達瀬でエビカニが少なくなり、底引き網漁が少なくなったため、海揚がり品が少なくなった。この大甕は昭和 61 年より少し後で平成初までの間に海底から引き揚げられた。大漁だと思って網を揚げたが、臭い泥が詰まった甕で、壊れていない甕 1 点のみ保管し、他は海に捨てたと言う。甕は越前 5-2 期、1550 年頃の製品である。

越前焼藁灰釉甕 1 点 (Fig.2-2)。赤そぶ（鉄分の多い泥）をはけで横方向に全面に塗り、藁灰と長石を混ぜた釉を肩部にのみ掛けている。火前に黄色の自然釉が少し掛る。素地の鉄分が析出して釉色は飴色、黄色になる。肩部に白泥を流しかける。高さ 52.1cm、口径 37.2cm、胴径 47.9cm、底径 20.2cm。底引き網に掛り海底から引き揚げられた。新保沖約 7 マイル海底 92 mの地点である。文政頃より少し後で、天保頃すなわち 1830 年代頃、登り窯が導入される前の製品である。T 窯印が口縁部に、〒△窯印が肩部に刻まれている。〒の窯印は平等の下手の甚右衛門作である。床が斜面の登り窯の製品で、底部下面の半分が床に付き、半分は団子状の支え 2 点の痕跡が残り、歪んでいる。

蛸壺 3 点 (Fig.2-3~5)。北瀬さんの親戚が所有している。まだ紐が掛ったままの状態である。昭和のものか。ピンク色の素地で、泥醤を内外綿に塗る。Ⅰ）高さ 23.5cm、口径 13cm、底径 14cm。Ⅱ）高さ 22.7cm、口径 12.9cm、底径 14.1cm。Ⅲ）高さ 22.6cm、口径 13.7cm、底径 14.4cm。全面にフジツボ、カキなどが付着している。海揚がり品であるが、玄達瀬か新保の近海かは不明瞭である。

齊藤洋一さん保管品

越前焼の壺 1 点、擂鉢 2 点である。壺 (Fig.3-3) は鉄釉のろくろ引きで、高さ 23.6cm、口径 16cm、底径 16.4cm。幕末明治初の平等の製品である。擂鉢 (Fig.3-1) は硬く焼締まり、細かな卸し目が内面全面に施され、片口となる。大きな高台が付く。高さ 12.9cm（ 4 寸）、口径 24.5cm（8 寸）、底径 9.3cm（3 寸）である。

壺は平成 10 年頃に、擂鉢は平成 21 年に海底から底引き網で引き揚げられた。引き揚げ地点は越前岬から西北方向に 50km、水深 600 m～ 650 mである。

他の擂鉢 1 点 (Fig.3-2) は、高さ 15.6cm（ 5 寸）、口径 35.8cm（ 1 尺 2 寸）、底径 15.2cm（ 5 寸）である。

越前町織田文化歴史館保管品

弥生時代後期中葉の土器甕 1 点、古墳時代後期土師器甕 1 点を、越前町厨の漁師、齊藤洋一氏が引き揚げ、越前町織田文化歴史館に寄託している。

弥生時代後期中葉の土器甕 (Fig.3-5)。口径 13.5cm、高さ 16.6cm、胴部最大径 13.8cm、底径 3.5cm。経ヶ御崎沖浦島の瀬で、1996 年頃、蟹の底引き網漁で海底 350 mから引き揚げられ、平成 11 年に福井新聞で紹介され、越前町越前ガニミュージアムで展示されたが、現在は斎藤さんが織田文化歴史博物館に寄託している。九頭竜川下流域の福井県坂井平野や福井平野などの集落遺跡出土品と類似していると言われる。

古墳時代後期 7 世紀前半の土師器甕 (Fig.3-6)。口径 19.9cm、高さ 30cm、胴部最大径 25.4cm。越前岬から北西 55km の玄達瀬付近で引き揚げられた。カレイの底引き漁で海底 640 mで網に掛った。内面に植物痕跡が付着しており、アワである可能性が高いという。福井平野、坂井平野の集落出土土器と類似すると言われる。弥生時代土器と同様の経緯を経て、現在、斎藤さんの寄託品である。

8 世紀中頃の須恵器瓶 1 点 (Fig.3-4)。越前町あるいは付近の製品か。高さ 20cm。経ケ岬沖からの引揚品である。2010 年 3 月に漁師さんから織田文化歴史館が寄贈を受けたもので、未報告資料であった。

福井県陶芸館所蔵品

越前町の漁師が寄贈した弥生時代後期の土器壺 1 点 (Fig.5-1)(田中 2010)。高さ 33.9cm、口径 20cm、頸部径 13cm、胴部最大径 32.7cm、底部径 5cm である。1982 年、越前岬沖 64km、水深 630m から底引き網に掛り引き揚げられた。この土器壺は山陰地方で作られたものと推定されている。口縁部が大きく外反し、口縁端部は面をもち、頸部に一条の突帯がめぐり、胴部の最大径が中央部にあり、そろばん玉の形を呈し、平底で、頸部内面ナデ調整、胴部内面ハケによる調整で、口縁部三分の二が欠落するが他は原形をとどめ、表面は黄褐色を呈し、所々に黒斑がみられる（越廼村 :1988:159-160)。

越前甕 1 点 (Fig.4-3)（田中 2010)。高さ 36.9cm、口径 21.7cm、胴径 32.5cm、底径 15.3cm である。漁

師が 1986 年、玄達瀬近くの水深 270 mでアマエビ漁中に引き揚げた。大甕内に入れ子状になって擂鉢多数が入っていたが、破損していた大甕や擂鉢は海中に投棄し、傷のない甕 1 点と擂鉢 2 点を持ち帰った。

越前擂鉢 1 点 (Fig.4-2)。高さ 12.7cm、口径 36.2cm、底径 16.4cm。木村編年Ⅴ 期 -2（1550 年頃、Ⅴ 期を 1490 年から 1580 年とし、1．2．3 小期に分類）に該当する。他の越前擂鉢 1 点 (Fig.4-1)（個人蔵）も同様であり、口径 36.8cm、底部径 16.1cm、器高 12.3cm である。これらの越前焼は一括引き揚げ品であり、大甕の中に甕と擂鉢が入子状で多数入っていたが、破損していたものは海に投棄した（田中 1987）。擂鉢に使用痕がなく、入れ子状になっていたこと、大甕・甕の口縁部と底部に摩擦痕がないことから（田中 1987）、商品として運ばれている途中に海底に沈んだものである。

福井市

居倉海岸で近現代の染付 10 片、擂鉢 1 片など陶磁器片を採集した (Fig.8-3)。この海岸は生活投棄ゴミなどの漂着物が多かった。こしの海水浴場は沖に消波ブロックが設置されており、陶磁器等の破片はなかった。大丹生漁港付近は沖に消波ブロックが設置されているが、染付 7 片、青磁 1 片、越前焼など 12 片の陶磁器を採集できた (Fig.9-1)。鮎川海岸も沖に消波ブロックが設置され、染付 2 片を含む 7 片の陶磁器片を採集した (Fig.8-4)。鉾島海岸は沖に消波ブロックがあり、陶磁器片などは採集できなかった。三里浜、鷹巣、雲出は一続きの砂浜で、採集品は一括して三里浜とする。この砂浜沖には西側に消波ブロックが設けられているが、東側にはない。採集された陶磁器は、近世～近現代の染付が 30 片ほどで青磁 3 片や内面に叩き目がある破片が 2 片、合計 40 片ほどの陶磁器片である (Fig.9-2)。三里浜は福井港に隣接しており、付近には小さな河川があり、漂着物も多く見られる。林さんは鷹巣で近世の陶磁器片を採取している (Fig.10-2~4)。

福井県の海底文化財

福井県は古代以来越前若狭を代表する港湾の三国・敦賀・小浜およびその間の一部の湊町の現状が福井県によって調査されている（『歴史の道調査報告書第 6 集、馬借街道・海の道』福井県教育委員会、2006 年 3 月）。当該地域の北前船に関する史料も発表されている（全国北前船研究会編『全国北前船セミナー講演・研究発表資料集（第 1 回～第 20 回）』加賀市地域振興事業団・全国北前船研究会、2006 年 12 月）。

福井県の海揚がり品は弥生土器 6 点、土師器 1 点、須恵器 1 点、越前焼 11 点（甕 5 点、壺 1 点、蛸壺 3 点、擂鉢 2 点）、鉄錨 7 点、木製像 2 点。近世陶器 2 点（擂鉢）である。福井県の海揚がり品は越前焼ばかりでなく他の遺物も多く引揚げられていることがわかる。越前焼以外は弥生土器が多い。

玄達瀬は豊かな漁場で漁が盛んであり、漁師の底引き網などにより遺物が多く引揚げられているため以前からよく知られている。玄達瀬付近では 8 点の遺物が引揚げられている。他の場所では越前岬沖で 5 点、三国町雄島沖で 1 点、越前町新保沖で 1 点、経ヶ岬沖で 4 点、小浜湾で 1 点の遺物が引揚げられている。玄達瀬以外の場所でも多くの遺物が見つかっていることがわかる (Table.1)。

参考文献

越前町史編纂委員会 ,1977『越前町史上巻』越前役場
佐々木、他 ,2010「日本海海域における水中文化遺産調査概報―平成 21 年度―」『金沢大学考古学紀要』31:106-147.
越廼村誌編纂委員会 ,1988『越廼村誌本編』越廼村 :159-161.
田中照久 ,1982「日本海海底発見の大甕について」『福井考古学会会報』2:5 福井考古学会
田中照久 ,1987「玄達瀬から発見された越前焼」『福井考古学会会誌』5:121-134 福井考古学会
福井県立美術館 ,2008「美術館だより」118:2
田中照久 ,2010「玄達瀬海底から引き揚げられた越前焼」『金大考古』67:4-9
掘大介 , 2010「海から引き揚げられた土器―経ケ岬沖・玄達瀬の弥生土器と土師器―」『越前町織田文化歴史館館報』5:18-20
福井県立若狭歴史民俗資料館 ,2005『若狭湾と中世の海の道　若狭湾の浦々と日本海流通』

日本海域水中考古学会 :nihonkaiikisuityukoukogakkai@live.jp

	Fig番号	種類	出土地	器種	製作年代	発見年代	きっかけ	発見者	保管場所	文献資料
1	Fig.2-1	越前焼	玄達瀬(越前岬から北西へ約30km)	大甕	16世紀(1550年頃)	昭和61年より少し後で平成初までの間	底引網	北瀬良春(丹生郡越前町新保)	個人蔵	
2	Fig.2-2	越前焼	丹生郡越前町新保沖	甕	19世紀(天保年間,1830年代)	昭和61年より少し後で平成初までの間	底引網	北瀬良春(丹生郡越前町新保)	個人蔵	
3	Fig.2-3	越前焼	玄達瀬か新保近海か詳細は不明瞭	蛸壷	昭和？	詳細不明	詳細不明	北瀬さんの親戚	個人蔵	
4	Fig.2-4	越前焼	玄達瀬か新保近海か詳細は不明瞭	蛸壷	昭和？	詳細不明	詳細不明	北瀬さんの親戚	個人蔵	
5	Fig.2-5	越前焼	玄達瀬か新保近海か詳細は不明瞭	蛸壷	昭和？	詳細不明	詳細不明	北瀬さんの親戚	個人蔵	
6	Fig.3-1	不明	越前岬から西北に50kmの地点	擂鉢	不明	平成21年	詳細不明	齊藤洋一(丹生郡越前町)	個人蔵	
7	Fig.3-2	不明	越前岬から西北に50kmの地点	擂鉢	不明	平成21年	詳細不明	齊藤洋一(丹生郡越前町)	個人蔵	
8	Fig.3-3	越前焼	越前岬から西北に50kmの地点	壺	近世近代	平成代(10年以上前)(2010年現在)	詳細不明	齊藤洋一(丹生郡越前町)	個人蔵	
9	Fig.3-4	須恵器	経ヶ岬沖	瓶	8世紀中頃	2010年漁師が寄贈(発見年代詳細不明)	詳細不明	詳細不明	越前町織田文化歴史館	
10	Fig.3-5	弥生土器	経ヶ岬沖	甕	弥生時代後期	平成8年頃	蟹の底引網	齊藤洋一(丹生郡越前町)	越前町織田文化歴史館	掘大介, 2010
11	Fig.3-6	土師器	玄達瀬付近	甕	古墳時代後期	平成8年頃	カレイの底引網漁	齊藤洋一(丹生郡越前町)	越前町織田文化歴史館	掘大介, 2010
12	Fig.4-1	越前焼	玄達瀬	擂鉢	16世紀(1550年頃)	昭和61年2月	甘海老漁	稲川(丹生郡越前町大樟)	個人蔵	田中照久,1982,1987,2010
13	Fig.4-2	越前焼	玄達瀬	擂鉢	16世紀(1550年頃)	昭和61年2月	甘海老漁	稲川(丹生郡越前町大樟)	福井県陶芸館	田中照久,1982,1987,2010
14	Fig.4-3	越前焼	玄達瀬	甕	16世紀(1550年頃)	昭和61年2月	甘海老漁	稲川(丹生郡越前町大樟)	福井県陶芸館	田中照久,1982,1987,2010
15	Fig.4-4	越前焼	玄達瀬付近(越前岬沖32km)	大甕	16世紀中頃	昭和57年2月下旬頃(1982)	カレイの底引網漁	中川喜代治(越前町小樟)	個人蔵	田中照久,1982,1987,2010
16	Fig.5-1	弥生土器	越前岬沖64km	壺	弥生時代後期	昭和57年2月下旬頃(1982)	カレイの底引網漁	中川喜代治(越前町小樟)	福井県陶芸館	越廼村,1988;佐々木ほか,2010;田中,2010
17	Fig.5-2	弥生土器	玄達瀬付近	壺	弥生時代後期	詳細不明	詳細不明	鈴間愛作(越前町)	個人蔵	越廼村,1988
18	Fig.5-3	弥生土器	経ヶ崎沖浦島の瀬	壺	弥生時代後期	詳細不明	詳細不明	北野七左衛門(織田町)	個人蔵	越廼村,1988
19	Fig.5-4	弥生土器	経ヶ崎沖浦島の瀬	壺	弥生時代後期	詳細不明	詳細不明	浜野唯一(越前町)	個人蔵	越廼村,1988
20	Fig.5-5	弥生土器	キツジマ沖	壺	弥生時代後期	詳細不明	詳細不明	厨浜野(越前町)	個人蔵	越前町,1977
21	Fig.5-6	銅鐘	若狭湾	鐘	中世	中世	詳細不明	詳細不明	佐伎治神社	福井県立若狭歴史民俗資料館,2005
22	Fig.5-7	仏像	小浜市矢代の浜	仏像	13世紀(南宋時代)	平成2年(1990)	護岸工事か	詳細不明	若狭歴史民俗資料館	福井県立美術館,2008
23	Fig.5-8	越前焼	小浜湾	甕	1230-50 年	詳細不明	詳細不明	詳細不明	個人蔵(美術商)	
24	Fig.5-9	鉄錨3点		四爪錨	詳細不明	詳細不明	詳細不明	詳細不明	福井県立若狭歴史民俗資料館	
25	Fig.5-10	鉄錨4点	船主の館から北西30マイル、水深530m	四爪錨	詳細不明	詳細不明	詳細不明	平野利男(三国町神明)	北前船船主の館	
26		須恵器	三国町雄島近海	詳細不明	古墳時代	詳細不明	詳細不明	詳細不明	個人蔵	越廼村,1988
27		須恵器	玄達瀬	甕	平安時代	詳細不明	詳細不明	詳細不明	個人蔵	越廼村,1988
28		仏像	越前岬沖	仏像	平安時代	詳細不明	詳細不明	詳細不明	個人蔵	越廼村,1988

Table.1　福井県沖の海揚がり品一覧表

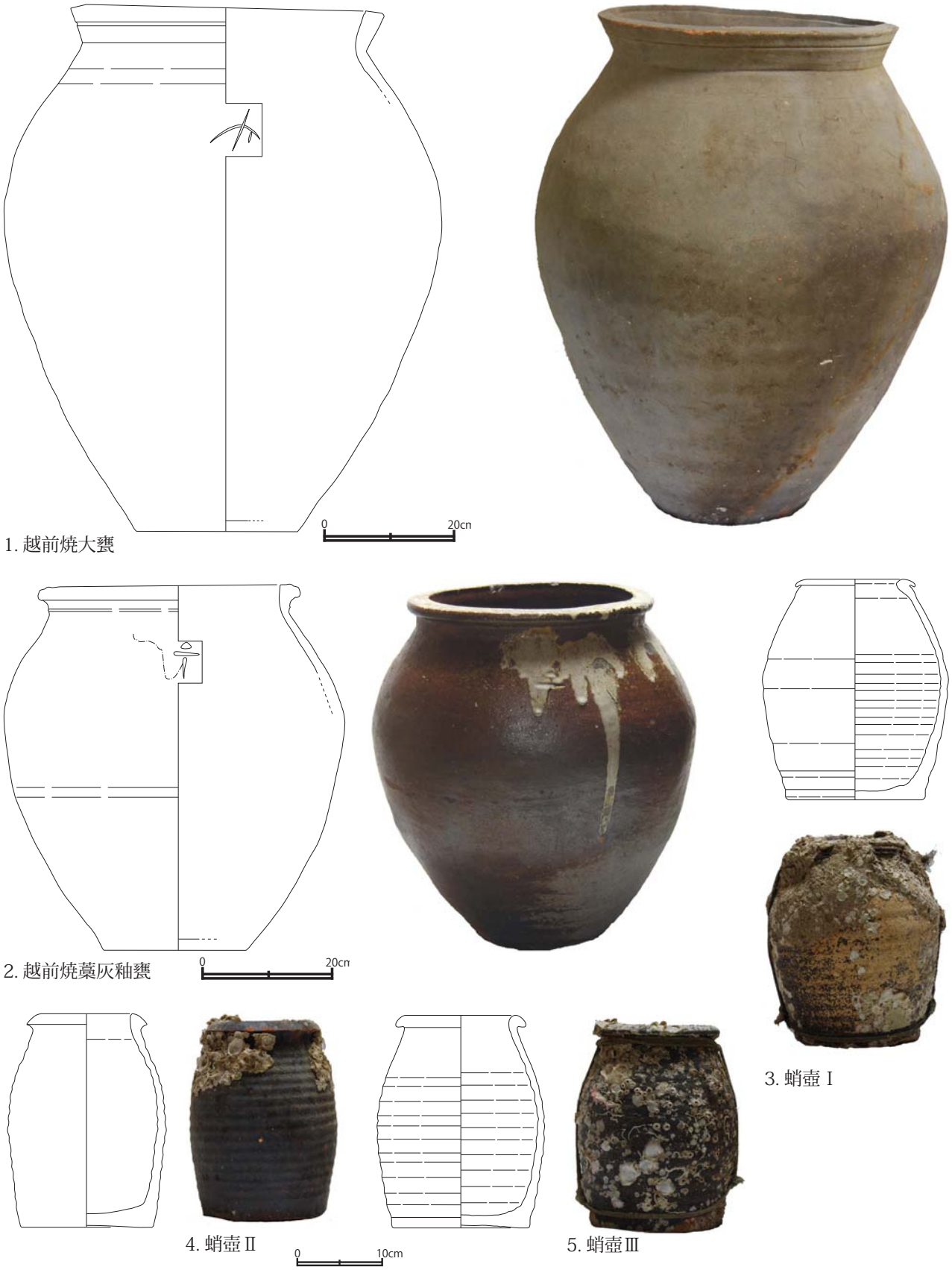
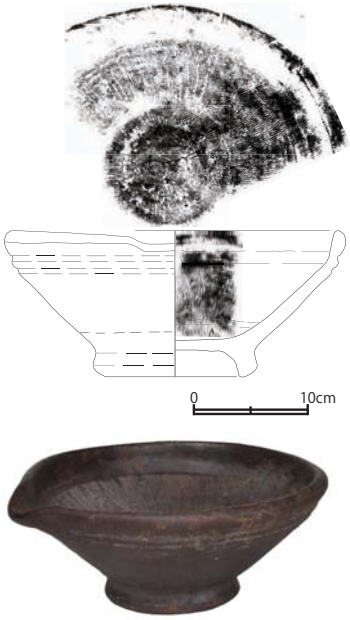
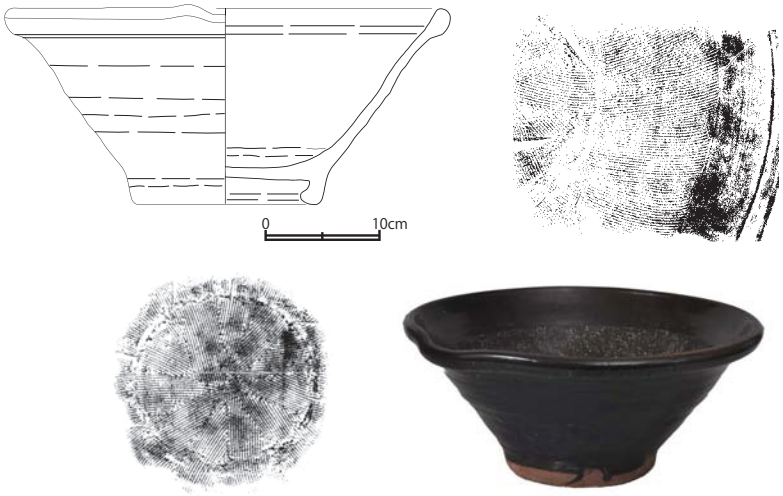


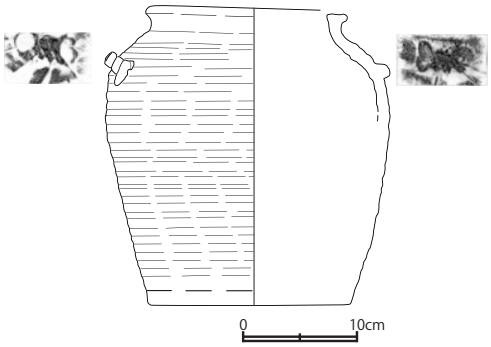
Fig.2　北瀬良春さん保管品



1. 擂鉢（個人蔵）

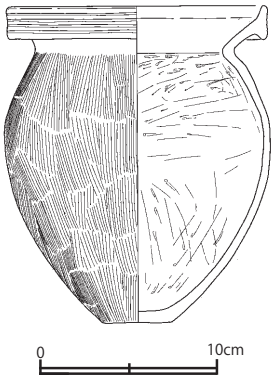


2. 擂鉢（個人蔵）

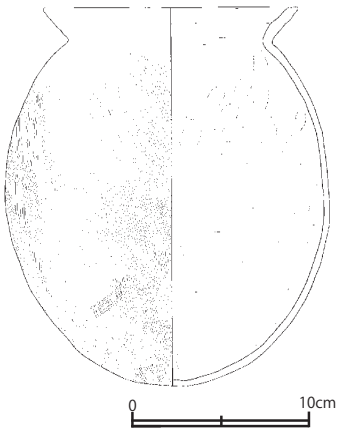


3. 越前焼壺（個人蔵）

4. 須恵器瓶（越前町織田文化歴史館蔵）

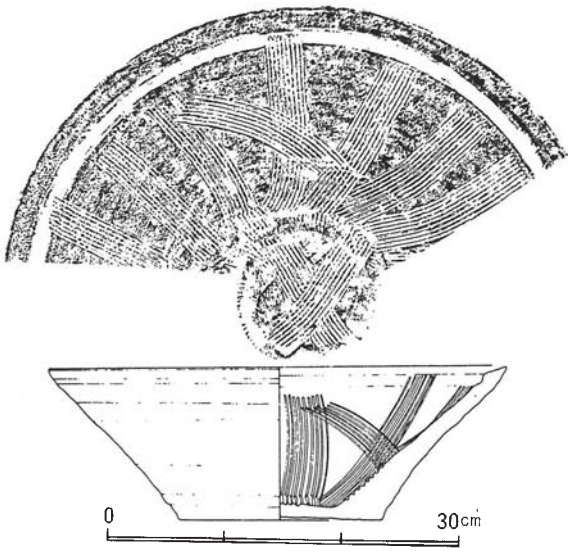


5. 弥生土器甕（越前町織田文化歴史館蔵）（実測図は越前町織田文化歴史館 .2010 より）

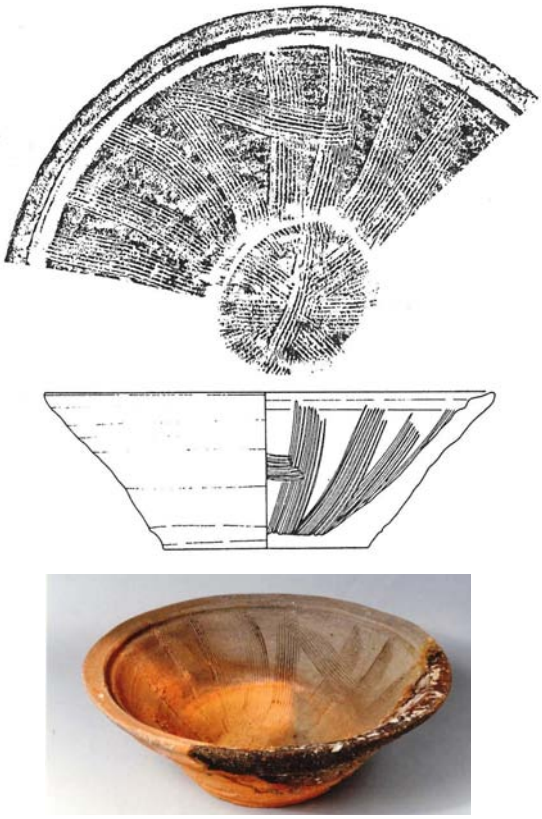


6. 土師器甕（越前町織田文化歴史館蔵）（実測図は越前町織田文化歴史館 .2010 より）

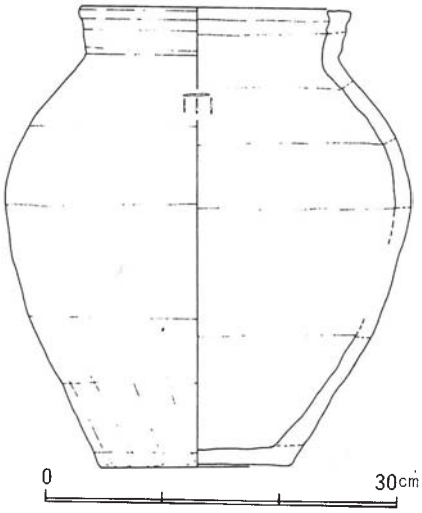
Fig.3　齋藤洋一さん保管品 (1~3)/ 越前町織田文化歴史館保管 (4~6)



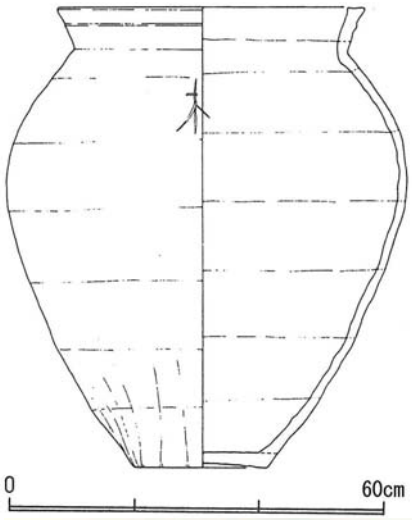
1．越前擂鉢（個人蔵）



2．越前擂鉢（福井県陶芸館蔵）



3．越前甕（福井県陶芸館蔵）

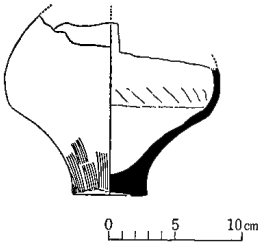


4．越前大甕（個人蔵）

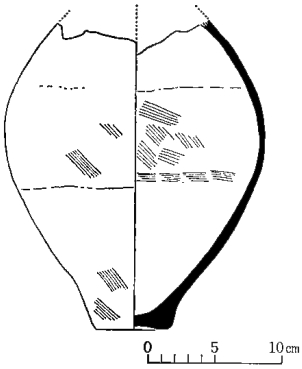
Fig.4　玄達瀬より引き揚げられた越前焼（田中 .1987,2010 より）

1. 越前岬沖引揚弥生土器（福井県陶芸館蔵）(佐々木、他 .2010 より）

2. 玄達瀬付近引揚弥生土器（越廼村 .1988 より）



3. 経ヶ崎浦島瀬引揚弥生土器（越廼村 .1988 より）



4. 経ヶ崎浦島瀬引揚弥生土器（越廼村 .1988 より）

5. キツジマ沖引揚弥生土器（越前町 .1977 より）

6. 伝若狭湾引揚げ銅鐘（福井県立若狭歴史民俗資料館 .2005 より）

7. 迦樓羅王立像（若狭歴史民俗資料館蔵）（福井県立美術館 .2008 より）

9. 四爪鉄錨　福井県立若狭歴史民俗資料館

10. 四爪鉄錨　北前船船主の館

8. 小浜湾揚がり越前甕（個人蔵）

Fig.5　若狭湾海揚がり品

高浜町難波江

小浜市矢代海岸

敦賀市立石岬

敦賀市色浜～手

南越前町河野海

福井市居倉

福井市大丹生漁港付近

福井市鮎川

福井市三里浜

Fig.6　福井県海岸踏査地

1a. 高浜町難波江 . 内面

1b. 高浜町難波江海岸 . 外面

2a. 小浜市矢代 . 内面

2b. 小浜市矢代 . 外面

3a. 敦賀市立石岬 . 内面

3b. 敦賀市立石岬 . 外面

Fig.7　福井県 . 表面採集資料

1a. 敦賀市色浜～手 . 内面

1b. 敦賀市色浜～手 . 外面

2a. 南越前町河野 . 内面

2b. 南越前町河野 . 外面

3a. 福井市居倉 . 内面

3b. 福井市居倉 . 外面

4a. 福井市鮎川 . 内面

4b. 福井市鮎川 . 外面

Fig.8　福井県 . 表面採集資料

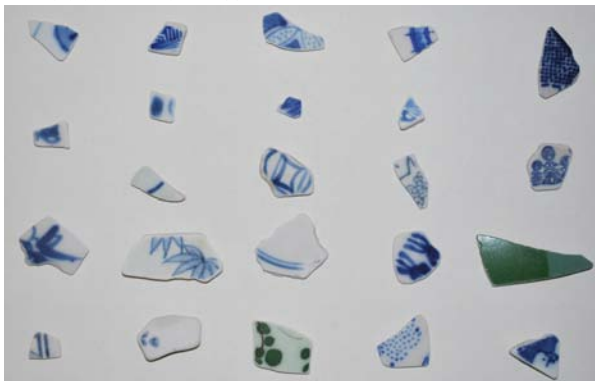
1a. 福井市大丹生漁港付近 . 内面

1b. 福井市大丹生漁港付近 . 外面

2a. 福井市三里浜 . 内面

2b. 福井市三里浜 . 外面

3. 小浜市西津　2010 年 9 月桝郷さん採集撮影


4. 小浜市西津　2010 年 9 月桝郷さん採集撮影

5. 敦賀市名子　2010 年 9 月桝郷さん採集撮影

6. 福井県敦賀市名子　2010 年 9 月桝郷さん採集撮影

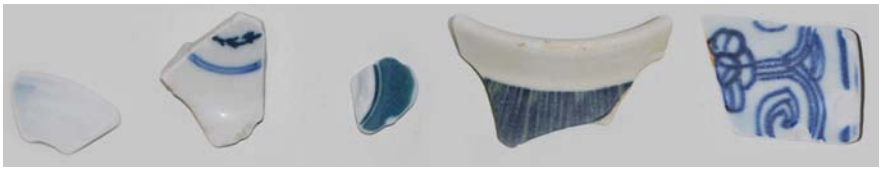

7. 若狭町倉見　2010 年 9 月桝郷さん採集撮影

Fig.9　福井県 . 表面採集資料

1a. 越前海岸 . 内面

1a. 越前海岸 . 外面

2a. 福井市鷹巣海岸（三里浜）. 内面

2b. 福井市鷹巣海岸（三里浜）. 外面

3a. 福井市鷹巣海岸（三里浜）. 内面

3b. 福井市鷹巣海岸（三里浜）. 外面

4a. 福井市鷹巣海岸（三里浜）. 内面

4a. 福井市鷹巣海岸（三里浜）. 内面

Fig.10　福井県 . 表面採集資料 (林さん採集、久保公子さん保管品)